

第5号 一色城跡の堀を発掘

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
株式会社 島田組

7月より開始した今年度の発掘調査も、現地で遺構を探して掘る作業を終えることができました。現在は、出土した遺物（土器や木製品）の洗浄や、図面や写真などの記録類を整理する作業を詰所でおこなっています。半年間にわたり地元の皆さまや関係機関のご協力をいただきながら、多くの成果を上げることができました。厚くお礼申し上げます。

さて、最終調査区となった19Ba区では、それまでに見つかった中世（主に室町時代）の区画溝や江戸時代の「村境の溝」とともに、幅が約13.5m、深さが約1.7mの巨大な溝が確認されました。この規模は他を圧倒していること、西へ折れる角の部分があること、戦国時代とみられる漆椀が出土していることなどから、江戸時代の村絵図にある「字古城跡」、『片原一色村誌』（1888年）にある「橋本氏古城趾」すなわち一色城跡の堀である可能性がきわめて高いと考えられます。

さらにこの堀は東へも折れていて、それが「村境の溝」へ転用されたようです。『片原一色村誌』では城の東に「城ノ鎮守直会の社」があると記しています。ここも城の一部だった可能性があります。

この他、「美濃」と刻印のある奈良時代の須恵器も出土しており、さまざまな点で注目される遺跡であることはまちがいないでしょう。



図(上) 一色城跡の堀遺構(19Ba区上空から、線や文字を加筆)
(右) 「美濃」刻印のある奈良時代の須恵器(すえき)

